

クロダニジヨウ 黒谷城 ↓ヤマナカジヨウ
山中城。

クロダニバシ 黒谷橋 江沼郡山中温泉の地を流れる山中川に架した木橋で、深淵を望み奇岩に對する絶景である。詩人は味谷・黒谿などの文字を用ひる。句空の草庵集に、『此川のくろ谷橋は絶景の地也。げせを翁の平岩に座して手をうちたゞき、行脚のたのしび爰にありと一ふしうたはれしもと、自笑がかりけるに、なつかしともせちにおぼえて。今の手は何にこたへむほとゞぎす、句空。』とある。

クロダブガイ 黒田武亥 河北郡高松の人。羽田自明の三男。家を若杉屋といひ、通稱八十次郎・八十八・左右衛門。諱は忠恕。壽亭・著名堂・武亥と號し、梅室を師として、俳諧を學び、薙髪の後には造化隱居と稱した。明治三年六月五十六歳を以て歿。

クロタモンテイ 黒多門邸 加賀藩の江戸本郷邸内に往時黒多門邸と稱する一區があり、土牆を以て之を區別してあつた。初め藩の幕府に提供した證人を置く所であつたが、寛文五年證人を廢した後に於いても尙その屋舎を存し、閑番・足輕・御小人等を住はせた。廣さ二千七十一歩。この地は天和三年八月大聖寺侯の邸中に加へられた。

クロツフネジナイ 黒津船地内 河北郡井上庄の部落。この地は海岸で、もと小濱神社がこゝに鎮座し、それを黒津舟大明神といふた。越登賀三州志に渤海の黒船入津の所ゆゑこの名を得たとする説は探らない。黒船の名は渤海入貢時代には存せぬ。
クロツフネミヨウジン 黒津船明神 ↓ヲ

バマジンジャ 小濱神社。
クロノリ 黒海苔 寶曆の産物調書に、羽

昨郡福浦村・牛下村・生神村十一月より十二月中に取る。固よりこの地のみの産ではない。

クロバオリトウ 黒羽織黨 天保二年長連弘は藩の年寄に列した。當時處士上田耕帷を下して教授し、時弊を論ずること甚だ痛切であつた。連弘乃ち之を實地に試みんと欲したが、奥村榮實は當世に害ありとし、而して藩侯前田齊泰は榮實を信任したので、如何ともするを得なかつた。然るに十四年榮實の卒した後、連弘は漸くその意見を藩政に施すことを得、弘化・嘉永の間に互り、割場奉行關澤房清、算用場奉行水原保延、勝手方近藤信行等と謀り、財政を整理し、宿弊を芟除し、その成績頗る見るべきものがあつた。然るに嘉永二年の頃に至りては、この一黨は世人から黒羽織黨と呼ばれ、熾に新法を行つた爲に罵々たる世論を惹起したので、齊泰は彼等を以て藩政を紊亂するものとなし、安政元年六月十七日連弘の年寄職を免じ、翌日亦房清・保延・信行の職を奪うた。既にして連弘の四年四月を以て卒した後、その餘黨次第に蘇息し、文久二年保延は算用場奉行に登庸せられ、翌年房清・信行等概ね舊職に復するに及んで、再び政界に於ける勢力を得た。これ當時國事多端にして、彼等の材幹に待つことの急であつた爲で、彼等も亦一致協力して改革に當り、産物方の如き有益なる施設をなした。黒羽織黨の名は、連弘等が公務の餘暇互に相會する時、皆憲法染の羽織を着用したからだといはれるが、横山政知覺書によると、黒羽織は河

豚の異名で、人にあたる意の隠語であるとす

クロハバキ 黒脛巾 本多安房守政重の時、黒脛巾と稱する武勇の者多數を召抱へ、悪黨の取締に任じた。身分は多分足輕で、黒き脛巾を穿ち、六角の筋金の入つた棒を携へ、甚だ權威を振うた。老田氏・角針氏などは是等の子孫であるといふ。

クロボコイハ 黒ぼこ岩 ↓クロイハボウケ 黒岩崩。
クロマル 黒丸 珠洲郡直郷に屬する部落で、明治中に至り南黒丸と改められた。能登名跡志に、『内並五郎左衛門といつて、中比郷士ありといつて館跡あり。その筋目の者八人百姓にあり。館の邊に若王子の宮あり。近比まで内並寺といふ寺ありし由。また黒丸市兵衛といふ大百姓あり。昔は山廻役勤めて古き百姓なり。この者故ありて黒丸の名あり。類家に黒丸藤兵衛といつて大百姓あり。』と記する。

クロマル 黒丸 珠洲郡若山庄に屬する部落。明治中に至り、上黒丸と改稱した。文化十四年の郡方書上に、『黒丸村に館跡と申て、只今鹽藏建居申候。』とある。

クロミネザカ 黒峰坂 鳳至郡鈴屋から珠洲郡黒丸(今上黒丸)に越す山道で、黒峰法立山の麓を通過するものである。一に黒峰越ともいふ。正保四年の三州道程書上に、『鈴屋村より黒丸村迄貳拾七町、此間黒嶺坂上下十五町、牛馬通行不自由。』とある。

クロミネジヨウ 黒峰城 鳳至・珠洲兩郡界に聳える寶立山の南、鳳至郡寺山内の黒峰に在つたといふ。能登名跡志に、『阿別當といふ所に、黒峰の城主阿部の判官義宗といふ人の塚あり。則往來にて、所を五輪といふ。則此村に判官の子孫ありて、阿部殿とて呼びしを、誤て今阿別當と呼びて、是より黒峰山へ上る也。道に盃谷・銚子谷とて深き谷あり。是は黒峰の城元朝に落城せし時、器を捨てありし故に、地名に呼ぶといへり。絶頂に城跡あり。東方に冷水あり。七つ塚とてあり。是は落城の時死骸雜物を埋みし古塚と見えて、今も穿てば兵具出るといへり。此の黒峰といふ城郭の時は、大木茂り黒く見えし故名とすといへり。』といひ、越登賀三州志故墟考には、『黒峰法立山は、鳥越村・堂谷村・法住寺村の入合の地也。今城跡の遺形不詳。』とある。阿部判官のことは偽説であらう。

クロミネジンジャ 黒峰神社 珠洲郡白龍の今稻荷神社といふもの、之に當るのであらう。式内等舊社記に、『黒峰神社。若山郷白龍村地内黒龍寶龍山鎮座。稱寶龍山五社明神。或云寶嶺大權現。舊社也。』と見え、寶龍山は寶立山である。

クロミネホウリュウザン 黒峰法立山 ↓ホウリュウザン 寶立山。
クロモ 黒藻 能登の名産とした海藻。日用三味記天文九年六月十日に、『井上三郎九郎自能登上、持二百錢堅海苔七袋黒藻三包來。』とある。

クロモトウエ 黒本植 字は大嶺、號は萩、別に雲庵・衆白堂主人・化化道人等の號がある。安政五年二月石川郡宮腰に生まる。父は錢屋興右衛門。二塚村の農八兵衛の養子となつた。幼名榮太郎。十八歳初めて學に志し、藤田維正の門に就きて和漢の書を習ひ、後東